

## 2008年農業総合試験場の10大成果の概要

	研究成果	成果の概要
第1位	受粉作業不要な「とげなしナス」を日本で初めて開発	受粉しなくても果実が肥大する「単為結果性」と「とげなし性」を併せ持つ新品種。労働時間の15%削減が可能。とげがないため栽培作業や調理が快適。 (共同研究機関：独立行政法人農研機構野菜茶業研究所) 平成20年11月10日(月)記者発表
第2位	シソの袋培地栽培技術を確立	栽培面積80ha・産出額83億円で全国シェア1位の本県シソ栽培への袋培地栽培システム適用技術を確立。土壌病害や斑点病の被害軽減により農薬の使用を減らすことができる。
第3位	コムギの梅雨前収穫技術を開発	早生品種「イワイノダイチ」を当场開発の不耕起V溝直播と組み合わせ、梅雨前のコムギ収穫を実現。梅雨による収量と品質の低下を回避し本県麦作の振興を支援。 (新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業による研究成果)
第4位	豚舎浄化槽による垂鉛除去効果を解明	豚舎からの排水に含まれる飼料由来亜鉛の約9割を豚舎浄化槽により効果的に除去できることを明らかにした。浄化槽の普及を促進し、環境に優しい養豚の実現を支援。
第5位	白くて粘りの強い餅ができる新品種「中部糯110号」を開発	中山間地域で栽培されている従来品種よりも白くて柔らかく粘りの強い餅ができる新品種。特色ある加工品開発を可能にし地域振興を支援。 (農林水産省指定試験事業による研究成果) 平成20年10月9日(木)記者発表
第6位	水田の下層土が地下水中の硝酸イオンを浄化する機構を解明	河川流域の水田地帯では、下層に硝酸イオン濃度が高い地下水が流入しても硝酸イオンが消失するメカニズムを明らかにした。伊勢湾の富栄養化防止に水田が貢献している。 (共同研究機関：独立行政法人農業環境技術研究所)
第7位	子牛の健全育成におけるシンバイオティクスの効果を解明	哺乳期間の子牛にシンバイオティクス(乳酸菌とオリゴ糖を混合)を給与すると下痢の抑制や発育促進に効果的。脱・抗生物質と飼料費削減に道を拓く技術。 (新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業による研究成果)
第8位	名古屋コーチンの無投薬飼育技術を構築	名古屋コーチンの飼料にサトウキビ抽出物やシンバイオティクス(乳酸菌とオリゴ糖を混合)を配合することにより、高い免疫増強効果と鶏肉生産性が得られることを明らかにした。無投薬で安全・安心な名古屋コーチンの飼養技術。
第9位	牛ふん堆肥熟成に対する使用済生分解性プラスチックトレーの添加効果を解明	牛ふんに使用済の生分解性プラスチックトレーを添加すると、堆肥の熟成が早まることを明らかにした。資材を有効に利用して、良質な堆肥づくりが可能。 (共同研究機関：ユニー株式会社)
第10位	生分解性プラスチックポットの利用マニュアル(花壇苗用)を作成	花壇苗の生産に生分解性ポットを利用することにより、ゴミ減量化と環境に優しい花壇作りを可能にする実用マニュアルを作成。 (先端技術を活用した農林水産研究高度化事業による研究成果)